






つなぐ。 ツクル。

2022年9月期第2四半期 決算補足説明資料

2022年5月

極東産機株式会社（6233 東証スタンダード）

KYOKUTO

-  2022/9期第2Q決算概要
-  2022/9期通期決算見通し
-  トピックス

● 2022/9期2Q決算実績

- ✓ 前年比増収減益。主力のプロフェッショナルセグメントはステイホームの流れを追い風に増収増益を達成。しかし、その他のセグメントは調整局面が続く
- ✓ COVID-19環境下での新たなビジネス方式は着実に浸透。プロフェッショナルセグメントはリモート営業方策が効果を発揮したうえ、畳事業ではものづくり補助金制度による案件採択も下支え要因に

● 2022/9期通期見通し

- ✓ 従来見通しを据置き。COVID-19に伴う中国ロックダウンや地政学リスクの高まり等により、原材料コスト増、運送コスト増、納期遅れなどのリスクは顕在化しつつあるも、価格転嫁や生産性改善などで吸収を計画。前年比では増収減益

● トピックス

- ✓ 新組立棟・生産本部棟が竣工。建設資金として、メインバンクが当社向け「SDGs推進シンジケーション」を組成
- ✓ 地域立脚企業としての社会的評価の獲得



2022/9期2Q決算概要

2022年9月期第2Q決算の概要

- 上期累計で前年比微増収ながら営業減益。プロフェッショナルセグメントは好調に推移したものの、その他の事業の調整局面の影響を受けた。ただし、2Q単独では対1Qで増収増益。プロフェッショナルに加えインダストリーセグメントも底打ち傾向が鮮明に
- 通期見通しへの進捗率は、売上面では48%に留まるものの、利益面では概ね6割超に到達

(百万円)	2021/9期 上期累計	2022/9期上期						2022/9期 通期見通し
		1Q	2Q	上期累計	対前年同期比		通期進捗率	
					増減額	増減率		
売上高	4,674	2,233	2,453	4,686	11	0.2%	48.0%	9,765
プロフェッショナル	3,501	1,739	1,910	3,650	149	4.3%	51.6%	7,075
コンシューマ	389	196	162	358	▲ 30	▲ 7.8%	38.2%	940
インダストリー	426	141	267	408	▲ 18	▲ 4.3%	37.1%	1,100
ニュー・インダストリー	357	155	112	268	▲ 89	▲ 25.0%	41.3%	650
営業利益	179	43	120	164	▲ 14	▲ 8.3%	63.2%	260
プロフェッショナル	146	48	105	153	7	5.0%	94.3%	163
コンシューマ	▲ 9	▲ 0	▲ 5	▲ 6	2	▲ 26.8%	▲ 17.7%	39
インダストリー	39	▲ 5	24	18	▲ 21	▲ 53.8%	28.0%	65
ニュー・インダストリー	3	1	▲ 2	▲ 0	▲ 3	▲ 120.0%	10.0%	▲ 6
経常利益	203	30	119	150	▲ 53	▲ 26.4%	69.8%	215
当期純利益	151	14	83	97	▲ 54	▲ 35.9%	69.5%	140
営業利益率	3.8%	1.9%	4.9%	3.5%	▲ 0.3pp	—	—	2.7%
経常利益率	4.4%	1.4%	4.9%	3.2%	▲ 1.2pp	—	—	2.2%

四半期毎の業績推移

- 2Q単独では、対1Qで増収増益。ただし、前年2Q比較では減収減益。プロフェッショナルセグメントは2年半ぶりの高水準を確保したものの、コンシューマ、ニュー・インダストリーの各セグメントが低調という構図は四半期推移でも変わらず
- なお、2Qのプロフェッショナルセグメント営業利益率は5.5%。営業スタイル転換が奏功し、好調であった前年同期を更に上回る高水準を実現

(百万円)	2021/9期				2022/9期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	2,065	2,609	2,286	2,208	2,233	2,453
プロフェッショナル	1,684	1,816	1,707	1,733	1,739	1,910
コンシューマ	211	177	176	220	196	162
インダストリー	109	317	320	176	141	267
ニュー・インダストリー	59	298	81	77	155	112
営業利益	12	166	31	69	43	120
プロフェッショナル	48	98	38	74	48	104
コンシューマ	▲3	▲6	▲10	2	▲0	▲5
インダストリー	▲15	54	18	▲7	▲5	24
ニュー・インダストリー	▲16	19	▲15	0	1	▲2
経常利益	22	181	24	45	30	119
当期純利益	9	142	6	30	14	83
営業利益率	0.6%	6.4%	1.4%	3.2%	1.9%	4.9%
経常利益率	1.1%	6.9%	1.1%	2.1%	1.4%	4.9%

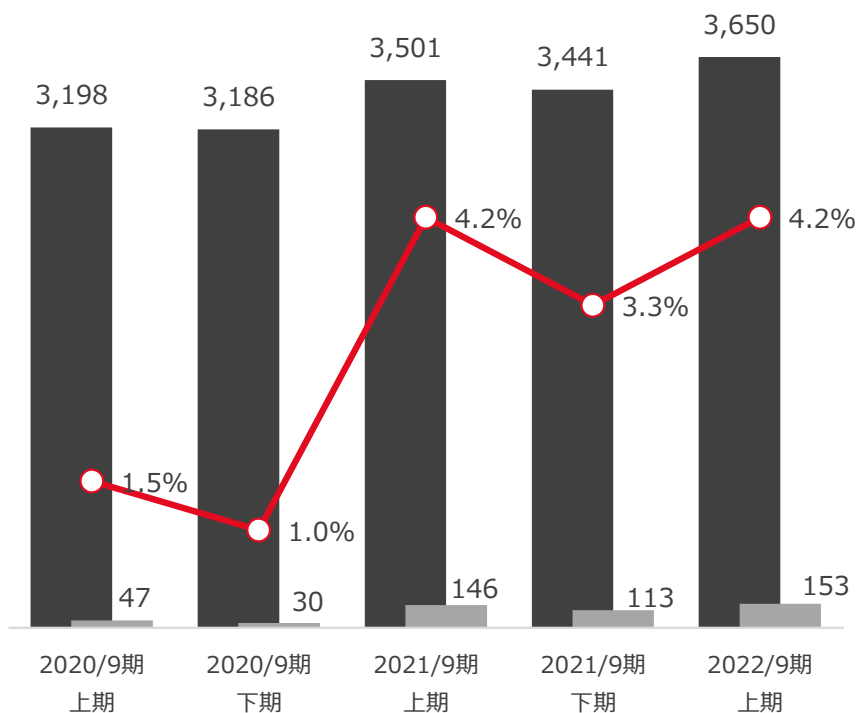
セグメント別事業の状況 ①プロフェッショナルセグメント

- 2Q累計（前年同期比）、2Q単独（対1Q比）ともに増収増益。畳事業が全体を牽引
- 住環境改善ニーズは引続き概して高水準で推移。リモート営業方策効果も発現

業績動向（半期ベース）

（百万円）

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 同利益率



インテリア事業

- ✓ 自動壁紙糊付機の販売開始50周年記念モデルの発売を4月に控え、伸びはやや減速
- ✓ しかし、リモート営業方策や拠点毎の小規模展示会の一部再開など、臨機応変な対応が浸透
- ✓ 新モデル発表後の3Q以降の加速を準備

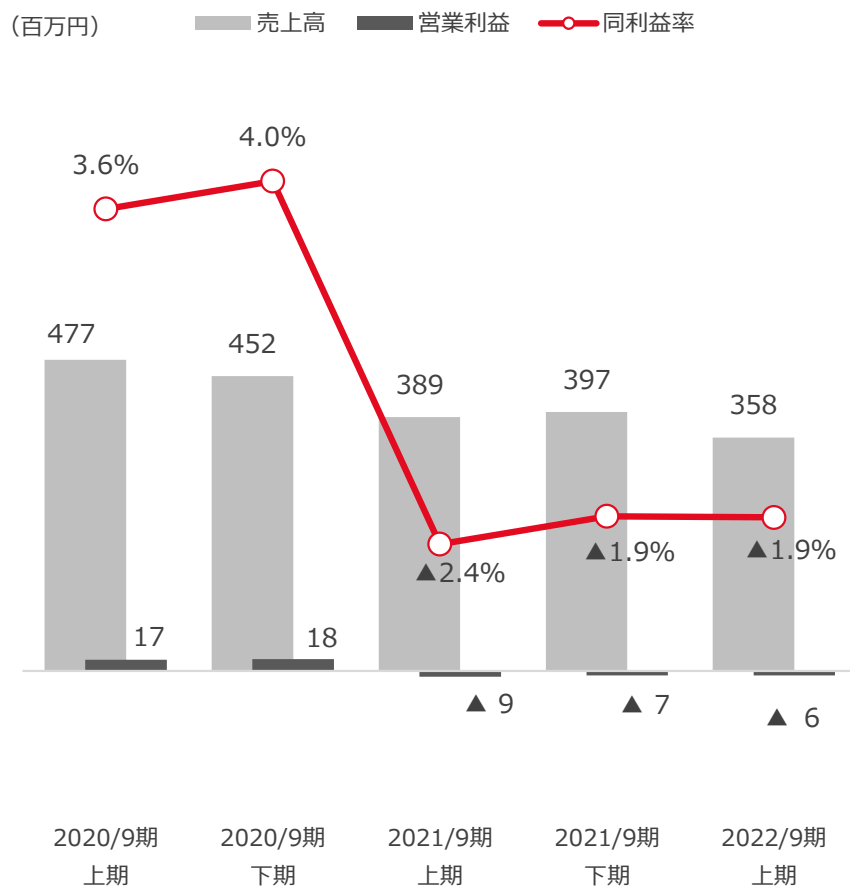
畳事業

- ✓ リモート営業方策が更に効果を発揮
- ✓ 畳店のものづくり補助金申請における当社機器使用の案件採択も引続き順調
- ✓ 在宅時間の長期化による住環境改善ニーズは高く、それに伴い畳製造機器の需要も底堅く推移

セグメント別事業の状況 ②コンシューマセグメント

- 2Q累計（前年同期比）は減収増益、2Q単独（対1Q比）は減収減益。資材不足により低圧ソーラー案件で納期遅れ発生
- BtoCビジネスは好調も、新領域展開はまだ本格拡大に至らず

業績動向（半期ベース）



コンシューマ事業

- ✓ フィットネスクラブ向け防音・防振床材の販売や BtoCビジネスは好調に推移
- ✓ 一方、期待していた棺用畳販売や住宅向けの畳替え仲介事業はまだ本格的な事業拡大局面には至らず。販売手法のテコ入れ策などを検討

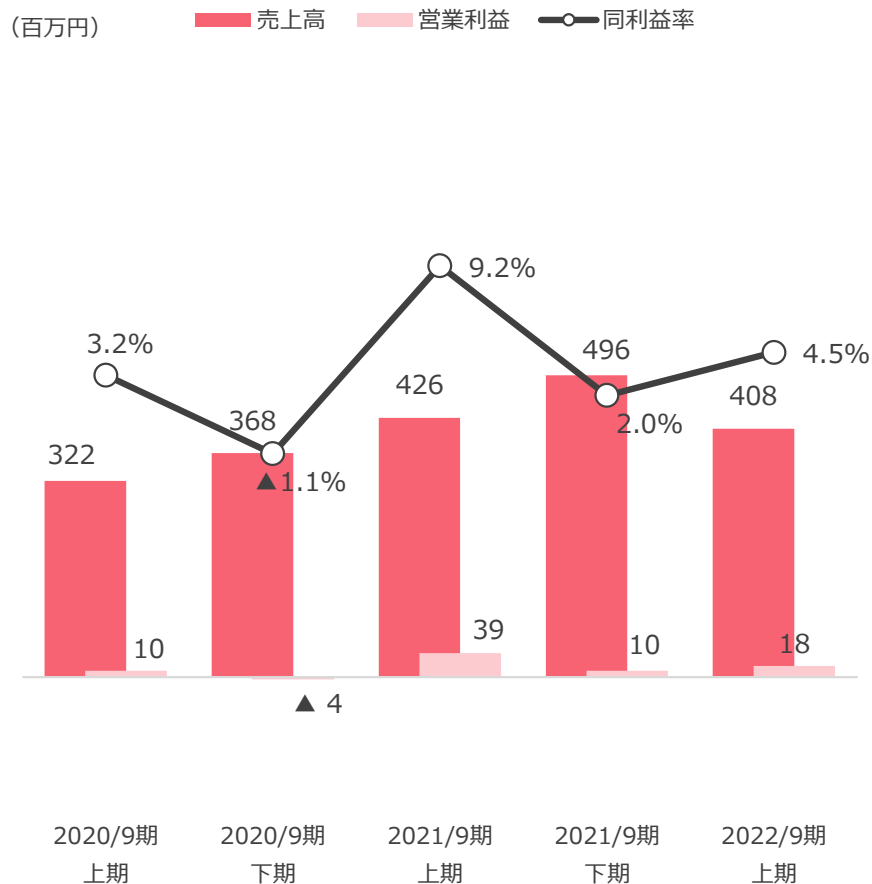
ソーラー・エネルギー事業

- ✓ 売電目的の低圧ソーラー案件において、資材調達不足による納期遅れが発生
- ✓ 一方、超長期契約のメガソーラー発電事業は順調に稼働中

セグメント別事業の状況 ③ インダストリーセグメント

- 前年同期比減収減益、対1Q比では大幅増収増益（黒転）。新規案件の引き合いは増加基調に
- 新規案件は開発～納品までが比較的長期となる傾向。本格的な売上寄与は3Q以降へ

業績動向（半期ベース）



産業機器事業

- ✓ 主要製品である二次電池製造装置のレポート受注が増加
- ✓ その他の新規生産設備案件の引き合いも増加
- ✓ ただし、新規案件は長納期のものも多く、本格的な売上寄与は3Q以降となる見通し

食品機器事業

- ✓ 大手飲食チェーンからのマルチディスペンサーの引き合いは徐々に回復
- ✓ COVID-19を契機とした主力取引先の業態転換の影響もあり、納期の長期化も発生

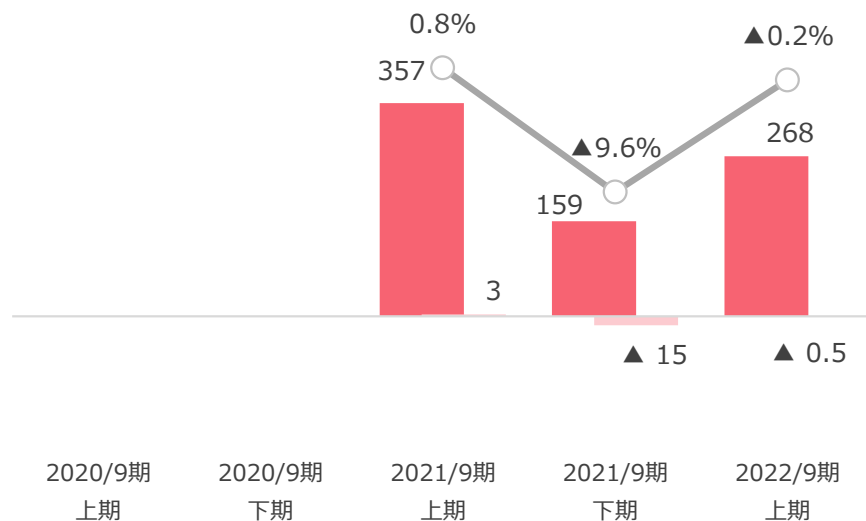
セグメント別事業の状況 ④ニュー・インダストリーセグメント

- 前年同期比、対1Q比ともに減収減益（赤転）。事業買収に伴うシナジー効果の発現はまだ途上
- 自動車生産はタイトな状況ながら、自動車内装部材にかかる設備投資需要はそれらに遅行する傾向は否めず

業績動向（半期ベース）

(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 同利益率

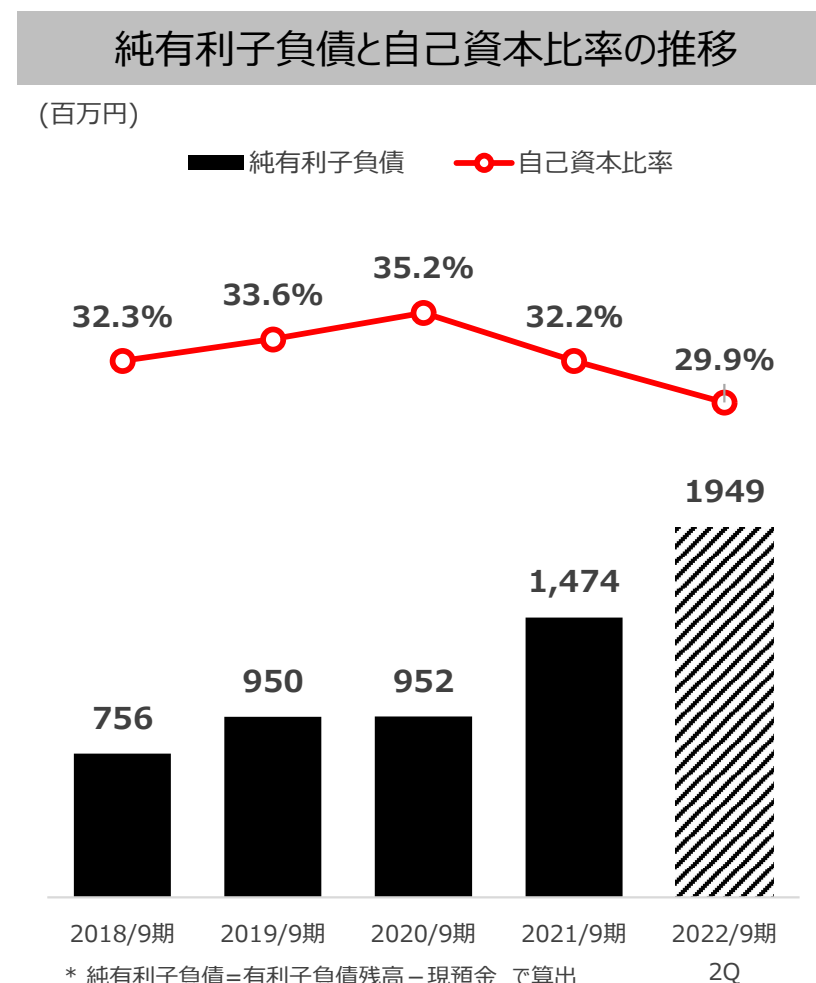


- ✓ 得意とする自動車関連業界向けの大型案件の売上は比較的順調と認識
- ✓ ただし、大型案件の売上が集中した前年同期比との比較では売上減少
- ✓ ファブレス構造に伴う外注依存型コスト構造が現状の売上水準では重石に
- ✓ 自動車生産はタイトな状況も、自動車内装部材にかかる設備投資需要の拡大にはタイムラグが存在
- ✓ なお、当セグメント買収（ROSECCの子会社化）に伴うシナジー効果の発現はまだ途上
- ✓ 内製化の促進など一体化をさらに進めることで、シナジー効果の早期実現に注力

バランスシートの状況

- 神岡工場の新組立棟・生産本部棟建設（完成（2022年4月）に伴い有利子負債が増加。自己資本比率は29.9%（前期末比2.4pp低下）と一時的に30%台割れ
- 棚卸資産は原材料価格の上昇を見越した前倒し確保推進で増加。また、第2四半期の売上増加により売掛債権も増加

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期 2Q累計
流動資産	5,048	5,271	5,714
現預金	1,429	1,561	1,420
売掛債権	2,627	2,553	2,930
棚卸資産	953	1,107	1,270
固定資産	2,543	3,353	3,723
総資産	7,591	8,625	9,438
負債	4,918	5,844	6,616
買入債務	1,635	1,774	2,225
有利子負債	2,381	3,036	3,369
純資産	2,673	2,780	2,822
負債純資産合計	7,591	8,625	9,438

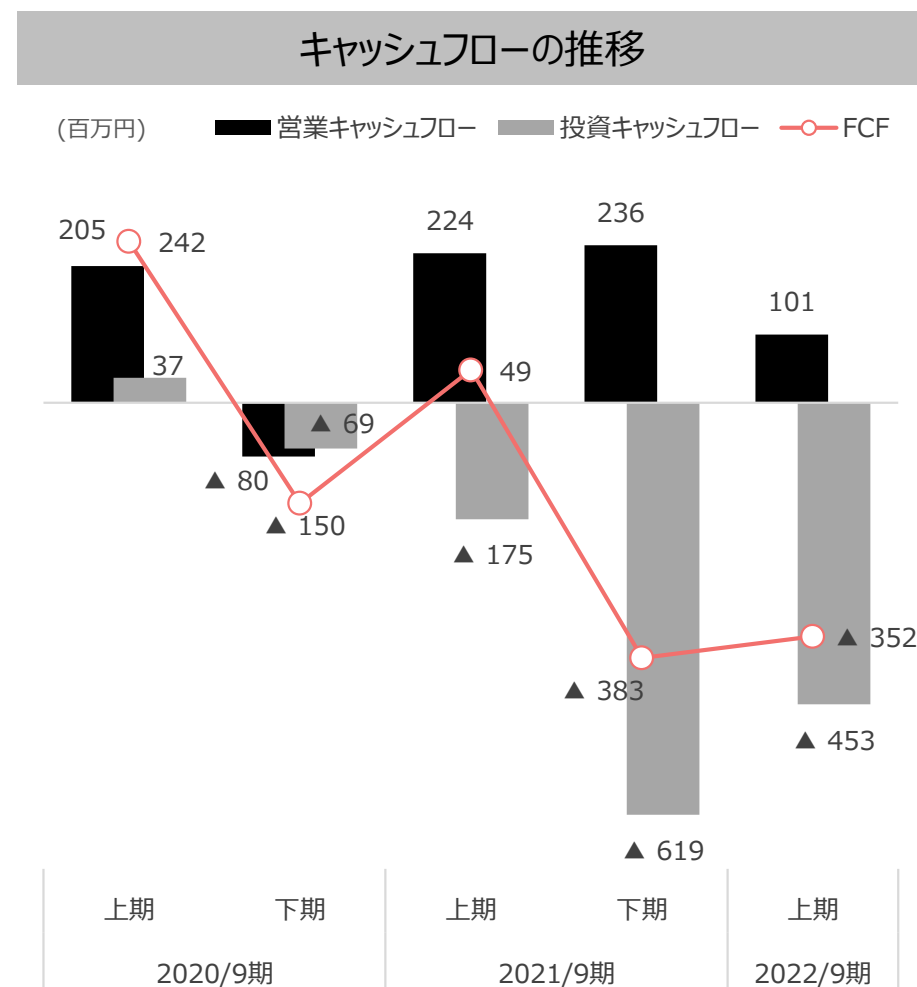


キャッシュフローの状況

- 新組立棟・生産本部棟完成に向け、2021/9期下期に続き2022/9期上期も高水準のキャッシュアウトが発生。FCFは2半期連続のマイナス
- FCFの赤字分はSDGs推進シンジケーションによる長期借入金を中心にファイナンス。期末現預金はほぼ一定水準を維持

(百万円)	2020/9期		2021/9期		2022/9期
	上期	下期	上期	下期	上期
営業CF	205	▲81	224	236	101
投資CF	37	▲69	▲175	▲619	▲453
固定資産取得	▲34	▲26	▲36	▲548	▲486
子会社株式取得	—	—	▲214	—	—
FCF	242	▲150	49	▲383	▲352
財務CF	▲176	105	440	2	269
借入金変動	▲95	106	497	22	333
配当金支払	▲53	0	▲53	0	▲53
期末現預金	1,091	1,046	1,535	1,155	1,072

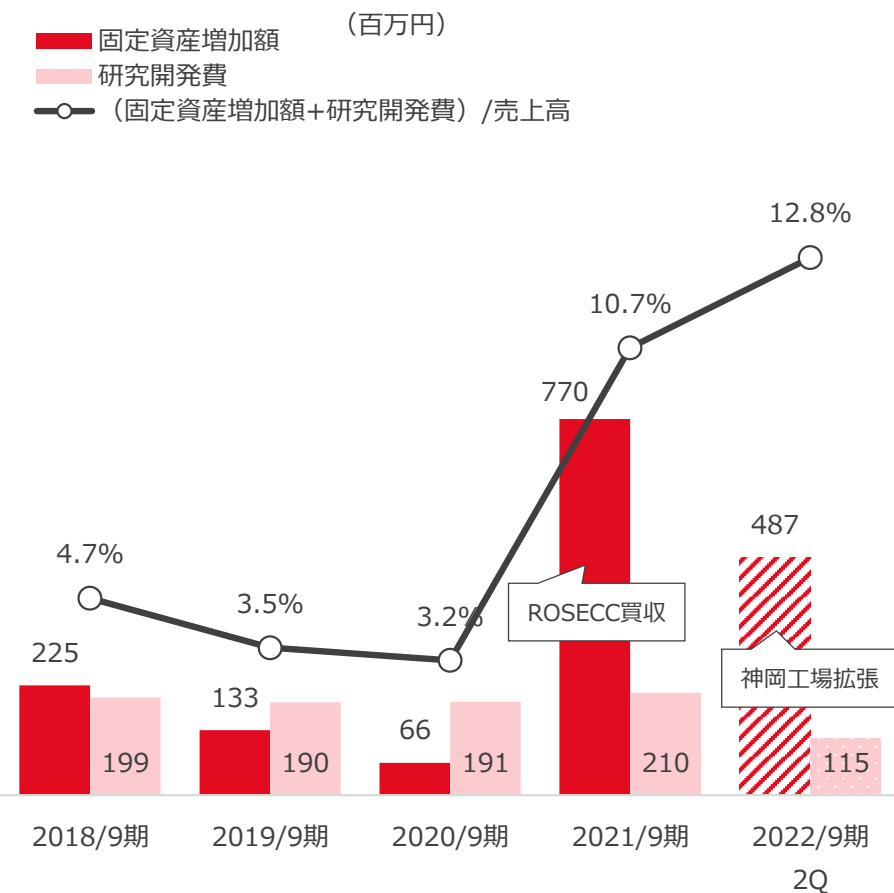
* FCF=営業CF+投資CF で算出



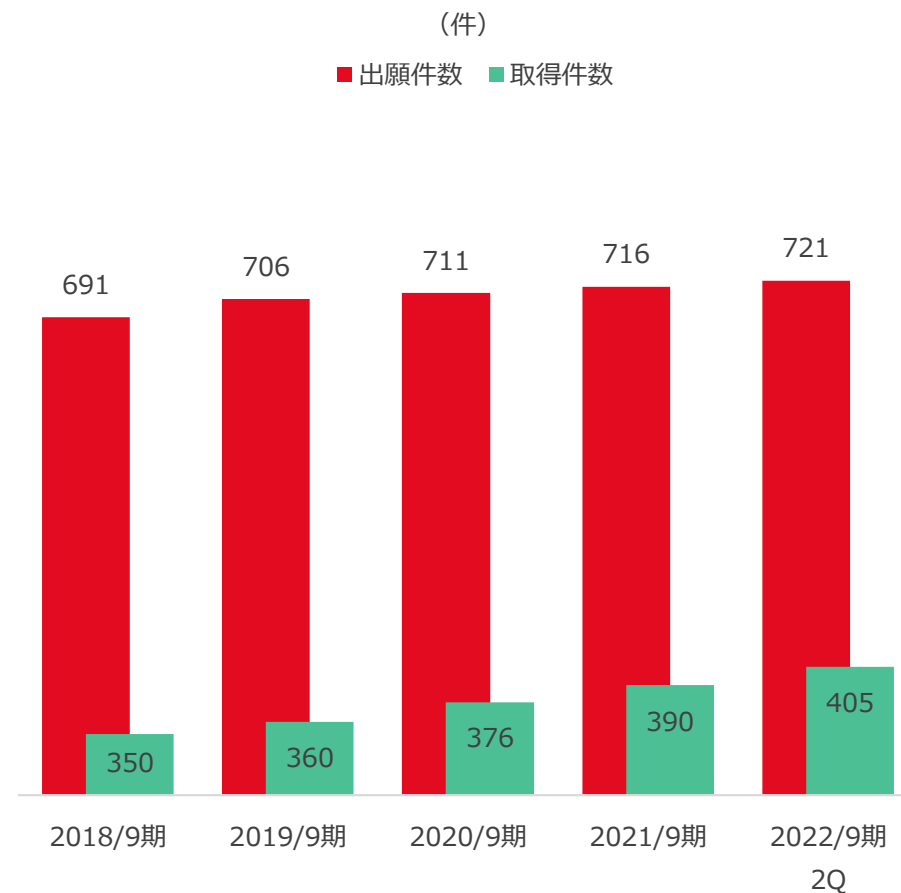
投資、特許件数の推移

- 神岡工場への新組立棟・生産本部棟建設に伴い設備投資額は一時的に増加。研究開発費を加えた対売上高比率は13%程度まで上昇
- 特許取得件数については、年間10件以上のペースで増加中

投資&研究開発費の推移



特許取得件数（累計）の推移





2022/9期通期決算見通し

2022年9月期決算見通し

- 通期見通しは据置き。前期比増収減益を想定。下期のみを見ても、対前年比、対上期比いずれも増収減益を見込む。受注は概ね堅調であり、従来見通しは十分達成の公算と認識
- 懸念材料は中国のロックダウンや地政学リスクの台頭など運送コスト増や部品調達の遅れ。そういった現象が今後顕在化してくる可能性は否めず、原材料高は価格転嫁を進めるなど、マイナス影響の吸収を急ぐ方針

(百万円)	2020/9期 通期	2021/9期			2022/9期				
		上期	下期	通期	上期実績	下期見通し	前年同期比 増減率	通期見通し	前期比 増減率
売上高	8,006	4,674	4,494	9,169	4,686	5,078	13.0%	9,765	+6.5%
プロフェッショナル	6,385	3,501	3,441	6,942	3,650	3,424	▲0.5%	7,075	+1.9%
コンシューマ	930	389	397	786	358	581	46.2%	940	+19.5%
インダストリー	691	426	496	923	408	691	39.2%	1,100	+19.1%
ニュー・インダストリー	–	357	159	517	268	381	2.4倍	650	+25.7%
営業利益	120	179	100	280	164	95	▲5.2%	260	▲7.2%
プロフェッショナル	78	146	113	259	153	9	▲91.8%	163	▲37.2%
コンシューマ	35	▲9	▲7	▲16	▲6	45	黒転	39	–
インダストリー	6	39	10	49	18	46	4.6倍	65	+31.1%
ニュー・インダストリー	–	3	▲15	▲12	▲0	▲6	赤字縮小	▲7	–
経常利益	81	203	69	273	150	64	▲6.9%	215	▲21.4%
当期純利益	67	151	37	189	97	42	12.9%	140	▲26.1%
営業利益率	1.5%	3.8%	2.2%	3.1%	3.5%	1.9%	▲0.3pp	2.7%	–
経常利益率	1.0%	4.4%	1.6%	3.0%	3.2%	1.3%	▲0.3pp	2.2%	–

2022年9月期決算 セグメント別見通し①

プロフェッショナル

- 増収減益想定。50周年(自動壁紙糊付機)、40周年(コンピュータ式畳製造システム)の販促実施に加え、当社初のサブスク方式のクラウド型業務管理ツール「Goolip」発売などの貢献を織り込むも、新工場新設による償却増が影響

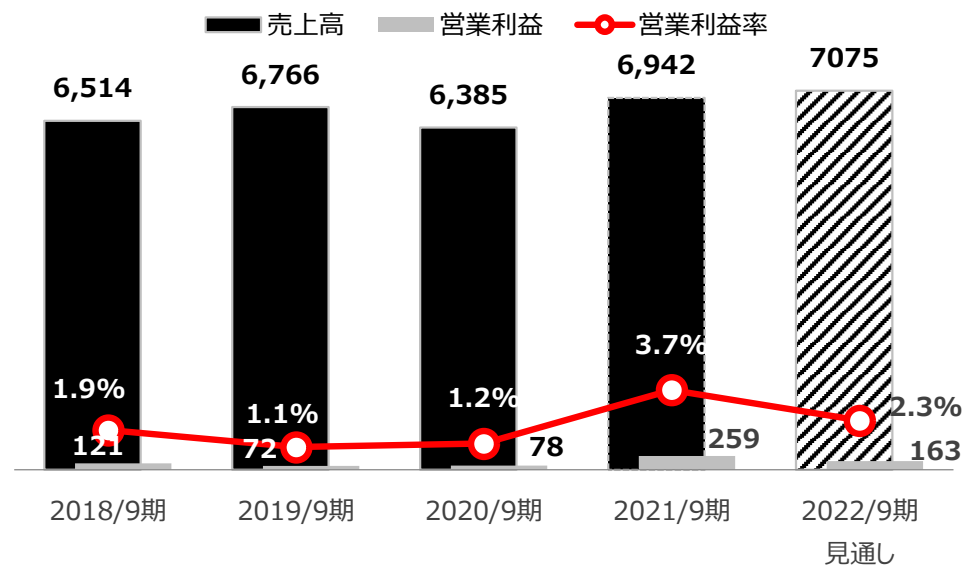
コンシューマ

- 増収増益想定。ソーラー・エネルギー事業は低水準継続となろうが、前期に開発を急いだ防災関連商品の拡販に加え、特殊機能畳等の既存商品のBtoCビジネス推進を想定

プロフェッショナルセグメント

(百万円)

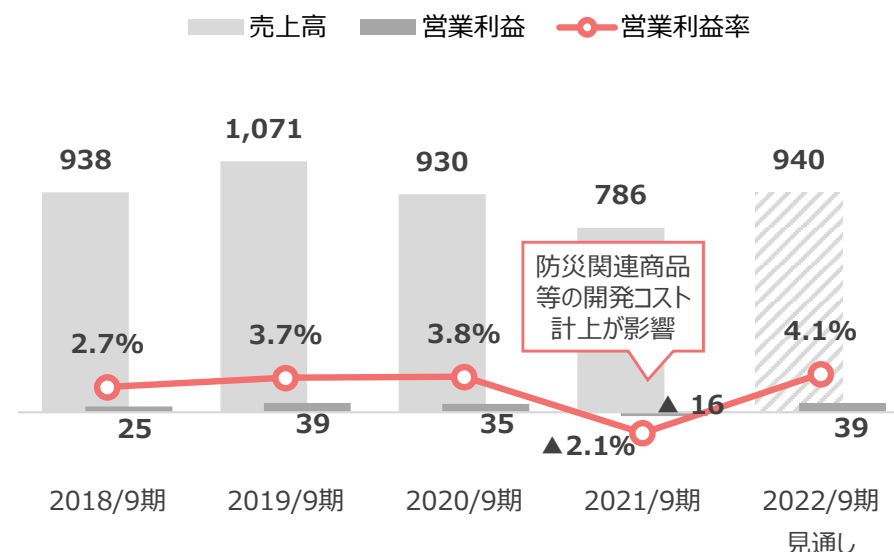
売上内訳	18/9期	19/9期	20/9期	21/9期
インテリア	5,578	5,771	5,343	5,829
畳	907	983	1,002	1,101



コンシューマセグメント

(百万円)

売上内訳	18/9期	19/9期	20/9期	21/9期
コンシューマ	570	675	524	574
ソーラー・エネルギー	313	342	351	158
売電	54	52	53	53



2022年9月期決算 セグメント別見通し②

インダストリー

- 増収増益想定。新工場棟(2022年4月完成予定)で大型案件の受注獲得に弾み
- 新規案件も順次売上に計上へ。食品機器事業は大手飲食チェーンとの取引拡大を継続推進

ニュー・インダストリー

- 増収赤字縮小想定。自動車内装設備の投資回復期待あるも、外注費負担重く損益苦戦継続
- 内製化の促進など、ROSECCとのシナジー効果の早期発現も追求

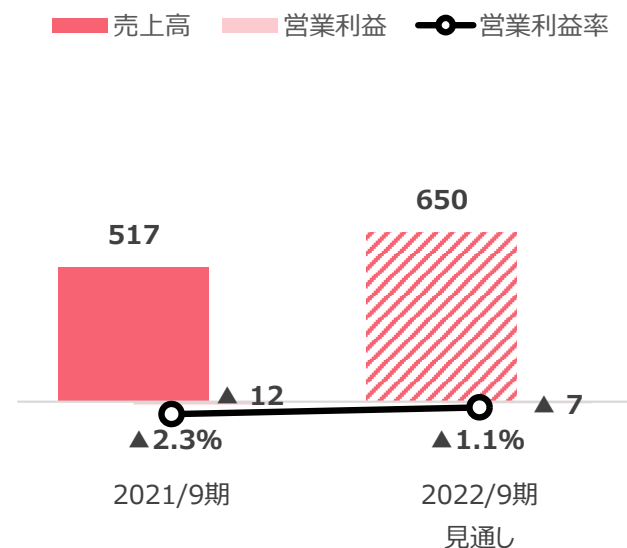
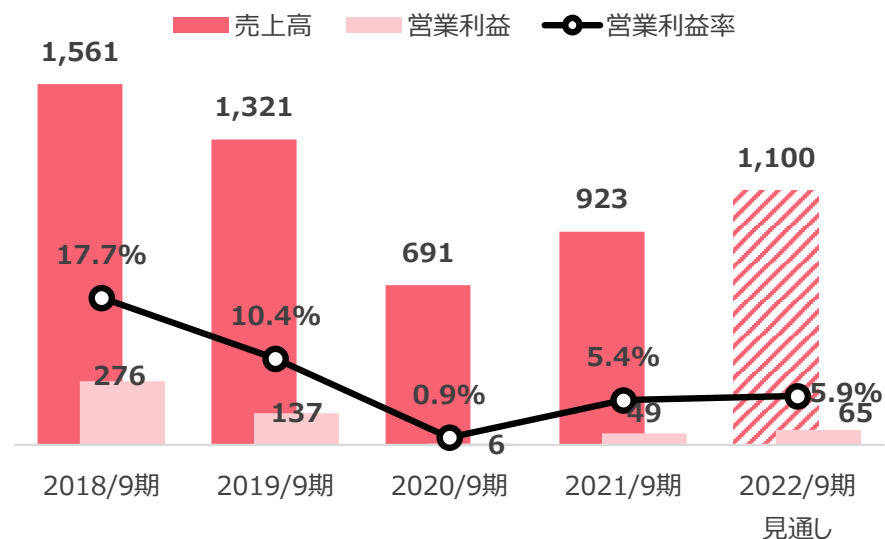
インダストリーセグメント

(百万円)

売上内訳	18/9期	19/9期	20/9期	21/9期
産業機器	1,131	1,049	471	704
食品機器	429	272	219	219

ニュー・インダストリーセグメント

(百万円)



KYOKUTO

THE PROFESSIONAL
MACHINES AND TOOLS
SINCE 1948

トピックス

メインバンクが当社向け「SDGs推進シンジケーション」を組成 KYOKUTO

(2021年10月29日リリース)

対象案件

案件1

- 二次電池製造装置の製造・販売による省エネ・蓄エネへの貢献と、太陽光発電事業を通じた再生可能エネルギーの拡大
- インダストリーセグメント、コンシューマセグメント



SDGs目標

目標9

産業と技術革新の基盤をつくろう



目標7

エネルギーをみんなにそしてクリーンに



案件2

- 地域の畳店の事業継承（写真は畳店向けの勉強会）、特殊機能畳の提供を通じた安全で快適な空間づくりへの貢献
- プロフェッショナルセグメント、コンシューマセグメント



目標9

産業と技術革新の基盤をつくろう



目標13

気候変動に具体的な対策を



「SDGs推進シンジケーション」とはシンジケーション実行時に、三井住友銀行及び日本総合研究所が、企業のSDGsに関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道筋（ロジック）を分析し、SDGsの取組推進に向けたアドバイス等を提供するローン

地域立脚企業としての社会的評価の獲得

2018年1月

地域未来牽引企業

経済産業省

地域経済牽引事業の担い手の候補となる地域の中核企業



地域未来牽引企業



2020年3月

ひょうごオンリーワン企業

兵庫県

優れた技術や製品を有し、国内外で高い評価やシェアを得ている企業



2021年2月

ひょうごNo.1
ものづくり大賞

兵庫県

兵庫県内のものづくり企業の優れた技術や製品・部材に対して顕彰
受賞製品は「ジムボード ネオ」
(フィットネスクラブでのウェイトトレーニング用器具の落下や振動による騒音等を低減する床材)



2022年5月

兵庫県功労者表彰

兵庫県

県政の伸展、公共の福祉増進の功労者として、当社社長頃安雅樹が産業振興功労部門表彰



新組立棟・生産本部棟

新工場概要

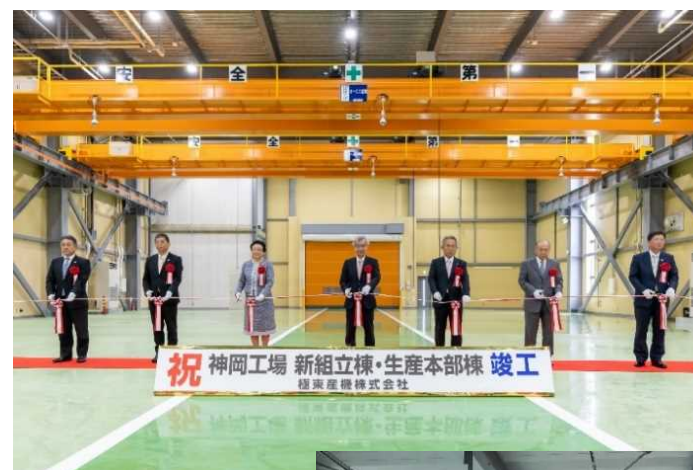
- ・延床面積：5,735㎡（全体面積は約60%拡張）
- ・新規取得土地面積：6,645㎡（同 約40%拡張）
- ・外寸：幅24m、長さ78.5m、高さ17mの大型工場
- ・主な生産品
 - ①リチウムイオン電池製造装置等の先端産業向けオーダーメイド産業機器
 - ②自動壁紙糊付機等の内装施工省力機器
- ・投資金額：18億円



【新工場外観（左：生産本部棟、右：新組立棟）】

竣工式・内見会（2022.4.27）

多くの来賓を招き竣工式ならびに内見会を開催。



◀ 新組立棟
1Fにてテープ
カット

▶ 内見会（新
組立棟2Fに
て自動壁紙糊
付機見学）





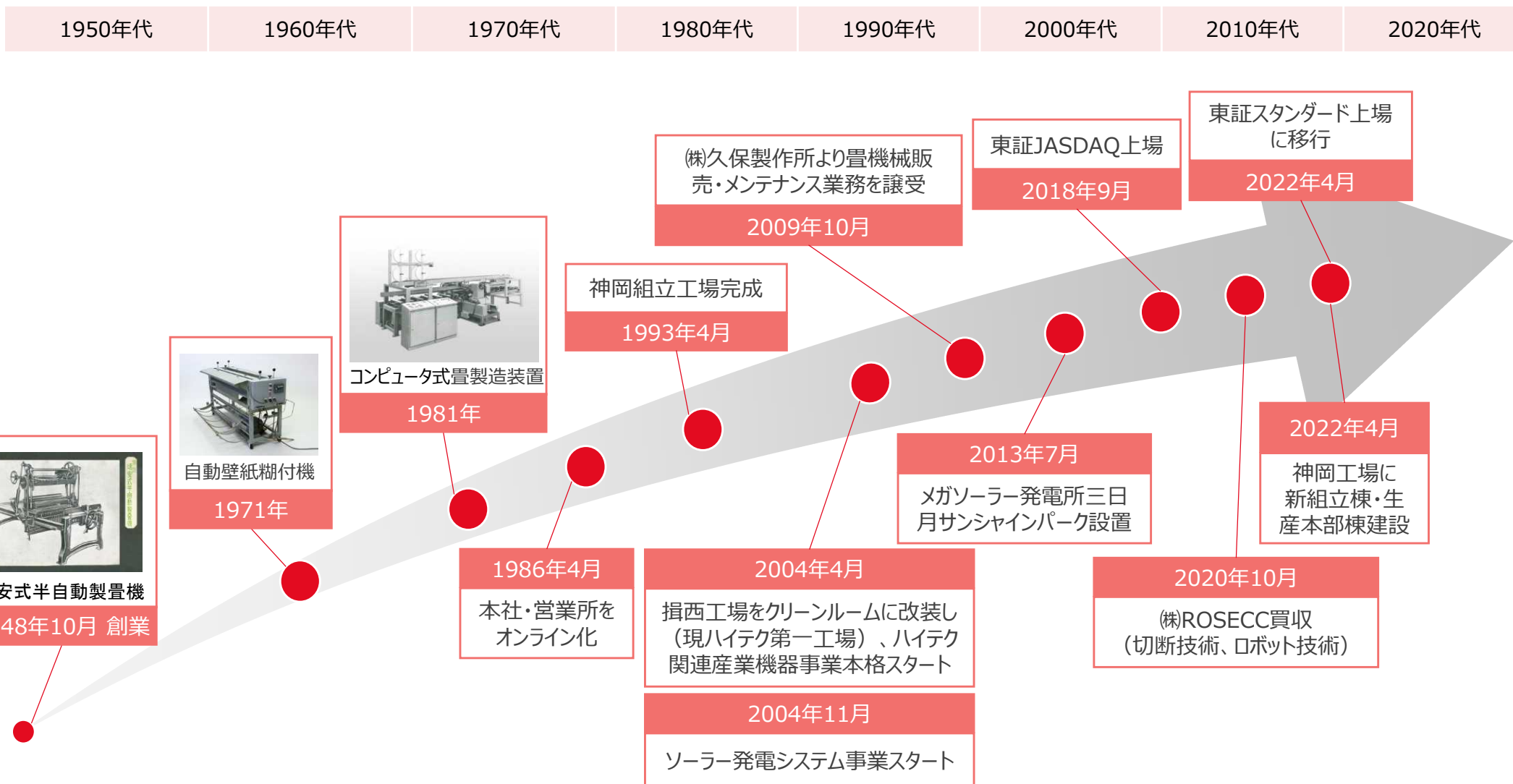
Appendix

「極東産機」とは

「職人」の世界に自動化・省力化技術を導入し（＝**つなぐ**。）、
新しい市場を創造する（＝**ツクル**。）問題解決型マシナリー企業

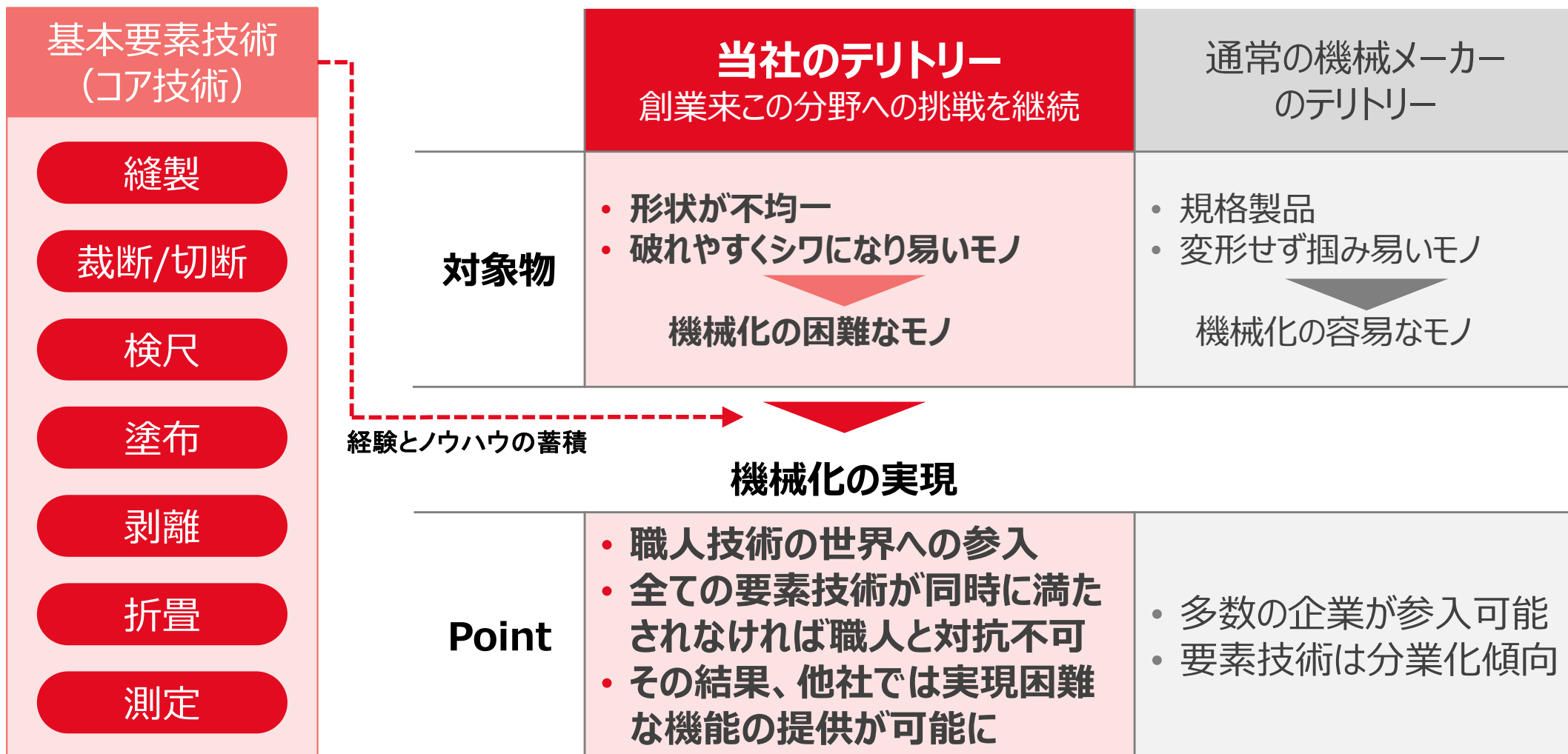
沿革

- 日本初のコンピュータ式畳製造装置、自動壁紙糊付機を開発。職人の世界にいち早くコンピュータを導入
- 現在はハイテク分野、メガソーラー発電などにも事業を展開



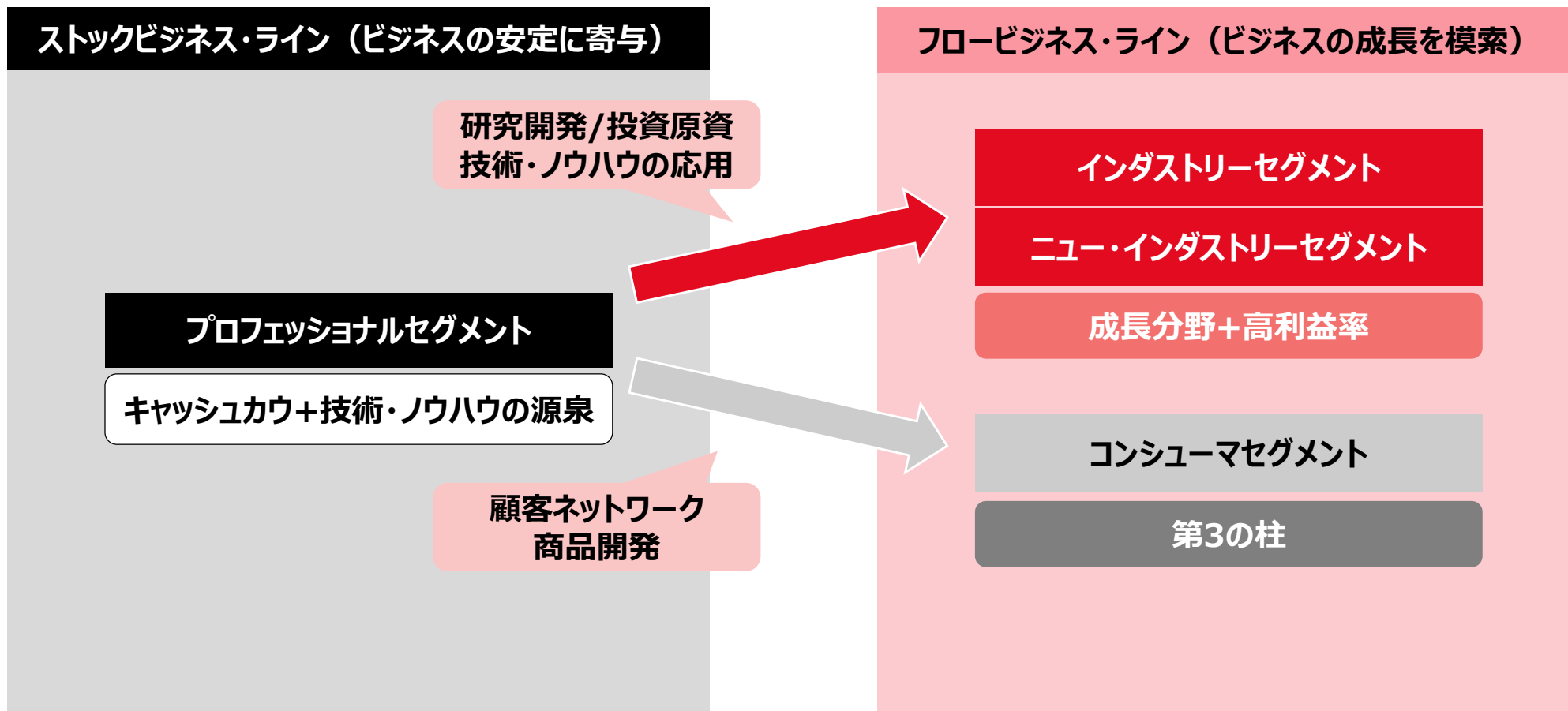
競争力の源泉 職人技術の自動化・省力化ノウハウ

- 7つの基本要素技術（コア技術）を全て満たす企業は少ないが、当社は1社で全て保有
- そもそも機械化が困難な職人の世界に当社は挑戦

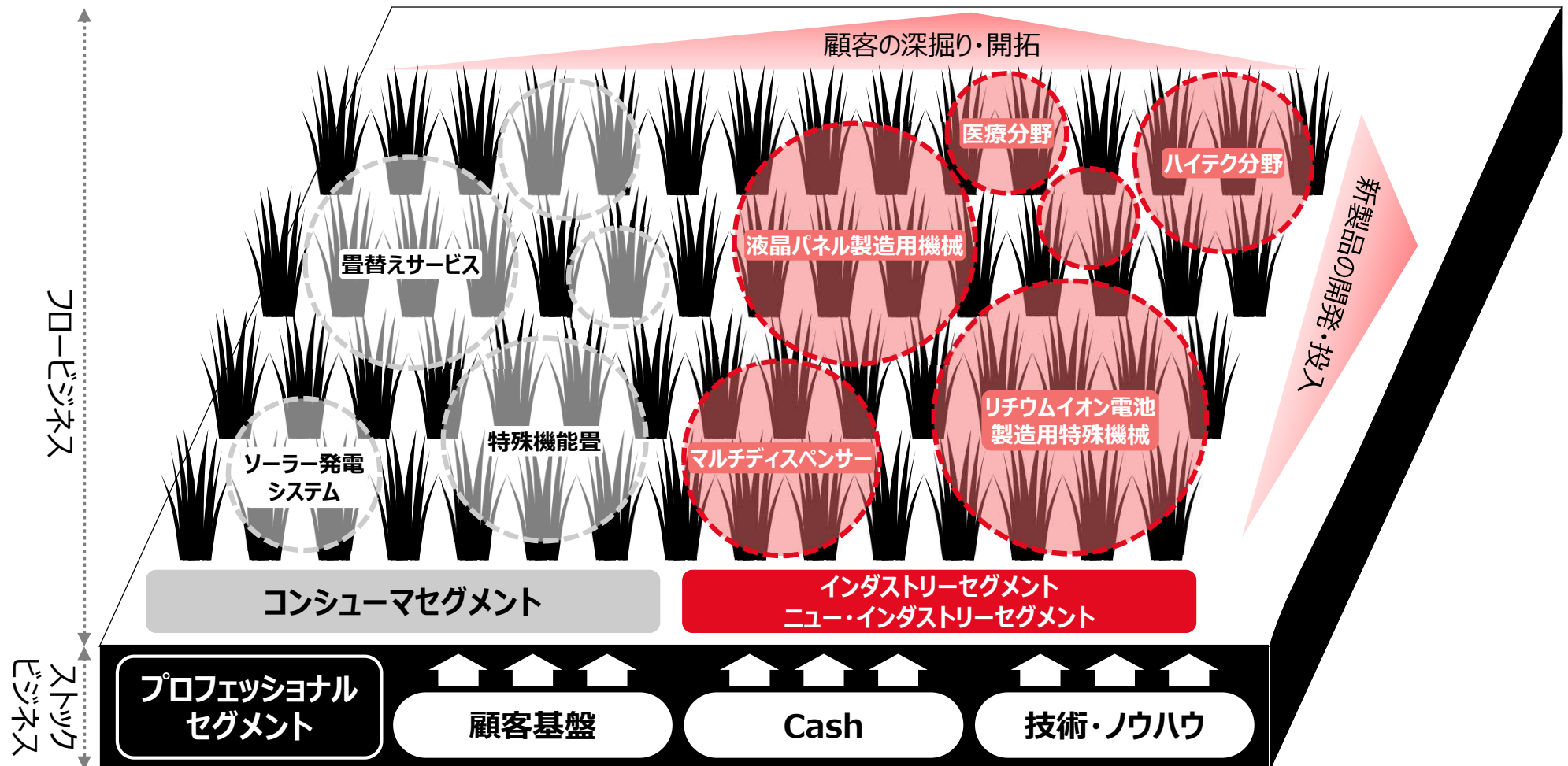


ビジネスモデル

- プロフェッショナルセグメントはストックビジネス色が強く、キャッシュカウ、技術の源泉として会社に貢献
- 一方、コンシューマセグメント、インダストリーセグメント及びニュー・インダストリーセグメントは成長を模索する事業
- プロフェッショナルセグメントからコンシューマセグメント・インダストリーセグメント及びニュー・インダストリーセグメントへ、キャッシュ、技術、ネットワークを供給し、会社全体の成長を図っていく仕組み



プロフェッショナルセグメントは「畑」 コンシューマセグメント、インダストリーセグメント及びニュー・インダストリーセグメントは「果実」である！！



半導体・電子機器

自動車

●液晶検査装置

液晶パネルを構成するカラーフィルタ、アレイ、セルの検査をおこなう装置



●車載二次電池用スリッター

原反の電極またはセパレータ材料を製品幅に連続して裁断し巻き取る装置



建築

●ロックウール縫製装置

断熱材のロックウールを金属糸を使用して
8本針で金網に連続縫製する装置



繊維・アパレル

●コンテナバッグ縫製設備

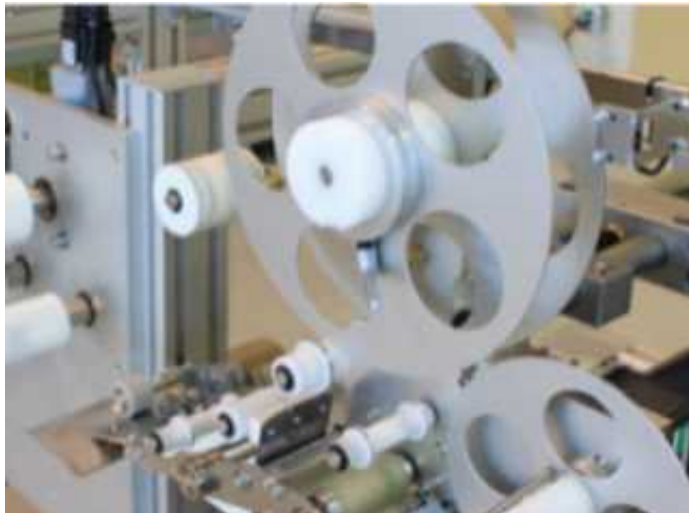
羊毛原料を搬送するときに使用する四角
いコンテナ状バッグを縫製する設備



医療

●IDタグ貼付装置

医療用品に、管理用のRFIDラベル
(ICタグ)を連続して貼り付ける装置



食品機器

●マルチ DISPENSER

味噌、濃縮ダシ、濃縮スープ等を希釈
して定量供給する装置



決算ハイライト

	決算年月	2017年9月	2018年9月	2019年9月	2020年9月	2021年9月	2022年9月 (第2四半期)
売上高	(千円)	8,891,042	9,014,643	9,159,561	8,006,367	9,169,425	4,686,226
経常利益	(千円)	389,101	381,170	212,791	81,586	273,578	150,076
当期純利益	(千円)	244,596	303,342	144,681	67,685	189,534	97,291
資本金	(千円)	415,750	602,050	631,112	631,112	631,112	631,112
発行済株式総数	(株)	4,235,000	5,235,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000
純資産額	(千円)	1,906,432	2,573,862	2,696,681	2,673,643	2,780,993	2,822,104
総資産額	(千円)	7,510,556	7,962,550	8,023,664	7,591,862	8,625,240	9,438,429
1株当たり純資産額	(円)	450.16	491.66	500.22	495.95	515.86	523.49
1株当たり配当額	(円)	5.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
1株当たり当期純利益金額	(円)	57.76	71.40	26.90	12.56	35.16	—
自己資本比率	(%)	25.4	32.3	33.6	35.2	32.2	29.9
自己資本利益率	(%)	13.7	13.5	5.5	2.5	7.0	—
配当性向	(%)	8.7	14.0	37.2	79.6	28.4	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	431,823	341,141	▲64,289	124,059	460,771	101,324
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲112,678	▲233,484	▲102,383	▲32,338	▲794,812	▲453,874
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲422,355	102,907	2,356	▲70,960	442,782	269,598
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	979,339	1,189,908	1,025,591	1,046,348	1,155,091	1,072,140
従業員数	(人)	256	260	275	281	292	—
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(19)	(25)	(24)	(23)	(25)	—

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部 IR担当
0791-62-1771 (代表)
ir-info@kyokuto-sanki.co.jp